



音旬



1

山田耕作の直筆原稿

平成二十一年十二月、山田耕作の『自伝 若き日の狂詩曲』(大日本雄辯會講談社、昭和二十六年)の原稿と初版本(自筆サイン入り)が、当時の編集担当者・窪田稲雄氏より本学へ寄贈された。

四百字詰め「耕作用箋(山田耕作特注の原稿用紙)」に書かれた原稿は、序・本文・跋(はな)をあわせて五〇七枚で、著者の思いの強い部分や登場人物にデリケートな配慮を要する箇所や特に入念に推敲し加除した痕が見られる。時代の節目をいくつも越えて保存されてきた原稿の出現は、山田の実像にさらに近づくことを可能にする目の覚めるような出来事であった。

2

台北芸術大学伝統音楽演奏会

会場・音楽学部第六ホール

七月九日、音楽学部第六ホールにて、台北芸術大学伝統音楽演奏会が開催された。

この演奏会は、日本の伝統音楽を学ぶために来日した国立台北芸術大学音楽学院伝統音楽学科の学生によるもので、研修に参加した学生らが、琵琶や古琴(七絃琴)、南管楽、北管楽といった伝統楽器を演奏し、多岐のジャンルにわたって台湾伝統音楽の名曲の数々を披露した。

3



台北芸術大学伝統音楽演奏会
台湾伝統音楽の名曲を披露

2



アジア音楽祭2010 in 東京
2010年のテーマは
「日本の〜(和)の音と心〜」

4



ショパンの胸像寄贈

ショパン生誕200年を記念してポーランドより寄贈

3

ショパンの胸像寄贈

会場：音楽学部校内、奏楽堂

本学音楽学部校内にはベートーヴェンをはじめ著名な音楽家の胸像が設置されているが、新たにショパンの胸像が設置された。この胸像は、ショパン生誕二百年を記念してポーランド共和国が世界各地へ設置しているもので、日本では本学に寄贈された。

五月二十二日には音楽学部校内において、宮田亮平学長、ミロスラヴ・ザサダ駐日ポーランド大使館代理臨時大使ほか、多くの関係者が参列するなか除幕式が執り行われた。

除幕式終了後に奏楽堂で開催されたショパン胸像除幕式記念ピアノリサイタルでは、ショパンの作品を中心に、若手ピアニスト、ダニエル・ヴヌコフスキ氏が演奏した。

4

アジア音楽祭 2010 in 東京

会場：東京芸術大学上野キャンパス、文京シビックホール・北とびあ(さくらホール)、旧東京音楽学校奏楽堂、東京芸術劇場(大ホール)

十月一日から六日まで、本学奏楽堂を始め東京芸術劇場ほか都内の音楽ホールを会場に『アジア音楽祭2010 in 東京』が開催される。

この音楽祭は、アジアの現代と伝統の音楽に焦点をあて、アジアの人々との文化的交流を目的として東京都などが主催し、本学や日本作曲家協議会などと共催して開催するもの。

二〇一〇年は、「日本の〜(和)の音と心〜」をテーマとしており、多彩なプログラムを通じて、世界における日本の果たす文化的役割を考察する。

映旬

1

Media Kitchen

◎メディア映像専攻

会場：横浜キャンパス 新港校舎

五月八日から九日にかけて、メディア映像専攻第五期生による特別演習での成果を発表する演習としての展示「Media Kitchen」が横浜キャンパスで開催された。

学生らが三週間にわたる特別演習(担当：藤幡教授)で、制作を通して映像メディアをさまざまな角度から捉え直すとともに、どう扱うかという問題と向き合った本展では、映像の起源であるカメラ・オブスクーラを制作するところから始まり、音と映像、言葉とイメージ、空間と投影、見る人と作品の関係など、さまざまな視点から制作された成果が展示された。

2

フェミス(国立映画学校)

ー東京藝術大学 合同ワークショップ

◎映画専攻

会場：横浜キャンパス 馬車道校舎

五月二十九日から六月十三日まで、映画製作者を志す日仏映画学校の学生による合同ワークショップが横浜キャンパスで開催された。

この試みは在日フランス大使館の働きかけにより実現したもので、映画学校の先達である仏国立映画学校フェミスと本学映画専攻の学生らとの交流を目的としたもの。ワークショップでは、映画産業に携わる講師を数多く招き、学生が幅広い観点から知見を得られるようにするとともに、第一線で活躍中の映画人との繋がりを作れるよう配慮がなされた。

3

「コンテンツポラリアーアニメーション入門」第四回講座

シヨクン入門」第四回講座

◎アニメーション専攻

場所：横浜キャンパス 馬車道校舎

同時代のアニメーションの見取り図を描くことを目標に平成二十一年度より開講している公開講座「コンテンツポラリアーアニメーション入門」。その第四回講座が七月三十一日、エストニアをそして世界を代表する監督プリート・パルン氏とオルガ・パルン氏をお迎えし、特別講座として開講した。

本講座では、日本を代表するアニメーション作家であり本学アニメーション専攻の山村浩二教授が司会進行を務め、両氏の最新作二本を上映するとともに二人の創作の秘密に迫った。

4

GEIDAI-CINEMA #4 &

GEIDAI ANIMATION 01+

◎映画専攻・アニメーション専攻

会期1：四月十七日(土)、十八日(日)

会場：上野キャンパス 美術学部中央棟第一講義室

会期2：六月十九日(土)～七月二日(金)

会場：ユーロススペース(渋谷)

本学上野キャンパス及びユーロススペース(渋谷)にて、映画専攻第四期生とアニメーション専攻第一期生の合同上映会「GEIDAI-CINEMA #4 GEIDAI ANIMATION 01+」が開催された。

この上映会は修了作品展として行われたもので、映画専攻の修了作品五作品とアニメーション専攻の修了作品十一作品を上映。ユーロススペースでは、ゲストを招いてのトークショーも開催され、連日盛況な上映会となった。



Media Kitchen | 1
メディア映像専攻



「コンテンポラリーアニメーション入門」 | 3
第4回講座
アニメーション専攻



フェミス (仏国立映画学校) - 東京藝術大学合同ワークショップ | 2
映画専攻



GEIDAI-CINEMA #4 & GEIDAI ANIMATION 01+ | 4
映画専攻・アニメーション専攻

GTS GEIDAI TAITO SUMIDA
Sightseeing Art Project 2010

藝大・台東・墨田観光アートプロジェクト



主催：GTS（藝大・台東・墨田）観光アートプロジェクト実行委員会

TOPICS OF
FINE ARTS

2010.02-07

美旬

GTS（藝大・台東・墨田）観光アートプロジェクト 2010

東京藝術大学と台東区、墨田区の共催による地域連携事業

1

1

GTS（藝大・台東・墨田）観光アートプロジェクト 2010

本学と台東区、墨田区の共催による地域連携事業「GTS観光アートプロジェクト」が実施される。

このプロジェクトは、平成二十二年度から二十四年度までの三年間、東京スカイツリーから浅草を結ぶ地域を芸術によってミュージアム化し、地域に貢献する芸術環境拠点の形成と新しい芸術の発信地となる地域創成を目指すもの。平成二十二年度は、東京スカイツリーのビューポイントに環境アート作品やアートベンチなどの設置を行う「アート環境プロジェクト」と国際現代芸術展、音楽コンサート、映像作品展などの会場と地域の名所を観光できるツアーとして楽しめる「国際アートプロジェクト」が実施される。

2



こだま色いろ図鑑

美術学部デザイン科3年生(当時)の有志6人によるワークショップ

2



天野太郎の建築展 あるべきようは

天野名誉教授の没後20年記念展

3

こだま色いろ図鑑

会場：東京大学医学部附属病院内こだま分教室

昨年十一月、美術学部デザイン科三年生(当時)の有志六人が、東京大学医学部附属病院内のこだま分教室において、「発信」をテーマにワークショップを開催した。

これは学生らが、長期入院中の子供たちに90分の授業を行い、そこで制作したものを、後子供たちがだれかに伝えたいくなるような／伝えられるような形にして返すことで完結する試み。子供たちが描いた「色」についての絵は、学生の編集とデザインで「こだま色いろ図鑑」という形になり、参加した全員に手渡された。この自発的な試みは今後もさまざまなテーマで続いていく。

3

天野太郎の建築展

あるべきようは

会場：大学美術館 陳列館2階

五月十一日から二十三日まで本学陳列館にて「天野太郎の建築展 あるべきようは」が開催された。本展は、天野名誉教授の没後二十年を記念し、主要作品の設計原図、模型、図面、写真、資料などを一堂に集め、天野の目指した空間をたどる企画。

戦後早く、フランク・ロイド・ライトに直に学んだ「有機的建築」の思想やアルヴァ・アアルトの影響をもとに、「あるべきようは」と自問し、自身の建築を追い求めた天野の理想とする空間は、時代を経た現在の我々にとっても依然魅力をもち続け、これからの建築のありようを示唆している。



保存修復彫刻研究室「研究報告発表展」
シンワアートミュージアム（銀座）内の展示風景

4



公開講座「SPECULA:21世紀芸術論」
先端芸術表現科と大学院映像研究科による公開講座

5

4

保存修復彫刻研究室 「研究報告発表展」

会場：シンワアートミュージアム

四月二十五日から五日間、銀座のシンワアートミュージアムにて、文化財保存学保存修復彫刻研究室「研究報告発表展」が開催された。

今回初めて学外で行われることとなった発表展に展示されたのは、鎌倉時代初期の仏師、快慶の作かと話題になった善光寺の阿弥陀如来立像をはじめとする六件の修復研究報告のほか計十三点。他の研究室の協力のもと、模刻や模写、模造といった修復以外の物件も紹介するなど多彩な研究成果の披露が行われた。

5

公開講座

「SPECULA:21世紀芸術論」

会場：美術学部中央棟第一講義室

六月二十六日、上野キャンパスの美術学部中央棟第一講義室で先端芸術表現科と大学院映像研究科による公開講座「SPECULA:21世紀芸術論」の第一回が行われた。

本講座は全八回の予定で、シリーズを通して気鋭の若手論客、千葉雅也氏と池田剛介氏がホストを担当する。初回はゲストに批評家の浅田彰氏とアーティストの岡崎乾二郎氏を招き、「芸術とハ現在」をテーマに、重層的なハ現在Vの可能性から出発し、さまざまな分野にわたる議論が交わされた。

同講座では、今後もそれぞれの分野で刺激的な探究を進めている方々をゲストに迎え、これ



特別講義「中国絵画と日本画の融合」—墨からの出発—

日本画専攻の学生を対象とした中国中央美術学院中国画学院副院長の胡偉先生による特別講義

6

からの芸術論の外郭を示すような議論を展開していく。

★詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.geidai.ac.jp/labs/specula2010/>

6

特別講義

「中国絵画と日本画の融合」

—墨からの出発—

会場：台東区立下谷小学校

シンポジウム「アジア・芸術の創造—芸術大学の役割—」が五月十九日に開催され、出席された各国教員による特別講義が各科で開かれた。五月二十日には、下谷小学校で日本画専攻の学生を対象に、中国中央美術学院中国画学院副院長の胡偉先生による特別講義「中国絵画と日本画の融合」が行われた。

中国画のもつ墨の奥深さと日本画のきらびやかな材料を融合させ、新しい中国画の基盤を築く先駆者である胡偉先生は、日本で学んだ経験や自身のこれまでの制作について話すとともに、日本画教員との座談会では、作家を取り巻く環境や中国絵画の現状、さらには中国での日本画の認知度などを解説した。最後は公開制作が行われ盛況裏に終了した。